

有馬氏の居城日野江城跡(国史跡)で 中国製陶磁器「法花」出土!!



昨年7月から、日野江城跡(北有馬町)の本丸地区で発掘調査を実施してきました。過去の調査では、二ノ丸地区で階段遺構や礎石建ちの建物跡の検出、金箔瓦の出土など多くの成果が得られました。が、今回は本丸地区の初めての調査となりました。貴重な遺構や遺物が数多く発見されましたので、報告します。

遺物は、国産の素焼きの土師器、法花、青花、白磁、青磁、三彩などの輸入陶磁器、茶道具の一種である石製の風炉など多種多様なものが発見され、総数は約3万点にも達します。

遺構、遺物ともに輸入陶磁器の文様や形などから15、16世紀のものであると判断されます。今回の成果品の中で特に重要な発見といえるのは、「法花」とよばれる中国製の陶磁器です。今回の調査で出土した法花の破片は、全部で18点で同一個体の壺と考えられます。外面には搾り出しの技法で細線の文様が描か

れ、それを補充するように藍瑠璃・赤・黄の釉薬が施され、雲文や蓮弁文、草花文などが表現されています。整然と配置された文様と鮮やかな色彩から、完成であればかなりの逸品であったと想像されます。国内の出土例は極めて少なく、今回の発見はまだ謎の多い輸入陶磁器「法花」の流通と消費を考えると、大きな意味を持つてくるものと思われま

有馬氏の居住区と推定されている本丸地区で初めて行われた今回の発掘調査では、有馬氏の城内での生活ぶりや日野江城の構造をうかがい知ることができました。今回の発掘調査の成果は、非常に意義深いものといえます。



11月15日(土)から26日(水)までの12日間、南有馬町原城文化センターで、世界遺産登録推進特別企画展「有馬の城と企画展」『ゆずれないものを持った人々』が行われ、原城から出土した「黄金の十字架」などを一見しようと800人以上が訪れました。

受験に向けての勉強と最後のコンクールでは、金賞をとるようがんばる!!! 南有馬中学校 名刺 林田茉莉亜



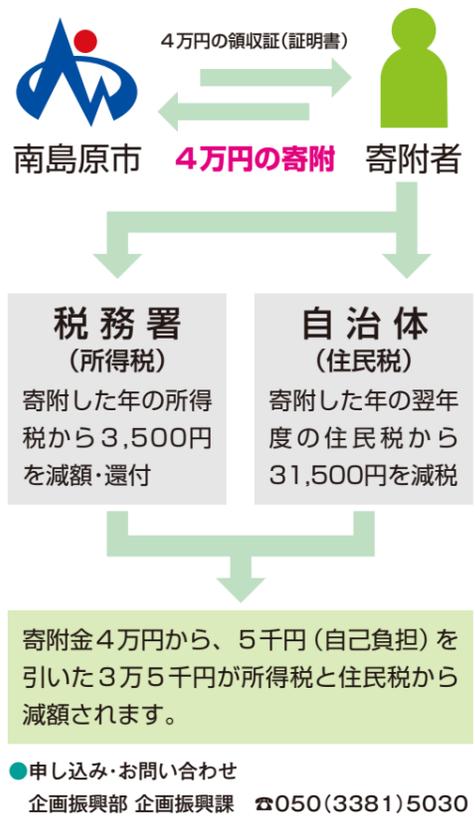
ふるさと応援寄附

平成20年12月1日現在 5,461,000円

～ふるさとの想いを形に～



ふるさと納税すると… (4万円寄附した場合) イメージ



「ふるさと納税」制度が平成20年5月から始まり、本市も「南島原ふるさと応援寄附」として、県内で一番に取り組んでまいりました。ふるさと納税の協力をいただきまして、12月1日現在で66人のふるさと南島原を思う皆さまから546万1千円のご寄附をいただきました。件数、金額ともに県内の市町村ではトップの数字です。

これは、何より「ふるさとを大切にしたい」「ふるさとの発展に貢献したい」と思われる方が県内で一番多かったということであり、金額の多寡以上にこのことは嬉しく、大変心強く思います。今後は、寄附者の皆さまからの思いを大切にしながら、市の発展に向けて、今後寄附金を活用させていただきたいと思っております。

さて、年末年始は、ふるさとへ帰省される方が年間を通して一番多い時期です。市民の皆さまには、帰省された親族、友人の皆さまにこの制度をお知らせいただきますようよろしくお願いいたします。

南島原市長 松島世佳

「協働のまちづくり推進指針の策定」が始まります

南島原市が目指す市民協働のまちづくりは、常にお互いを尊重・理解し、役割分担を明確にするのと同時に、本市が抱えている課題を出し合い、その課題に対して対等な立場で解決策を行うものであると思われま

10月24日(金)、西有家庁舎会議室で市民団体等からの代表者16人に対して、松島市長から南島原市協働のまちづくり推進指針策定委員会としての委嘱状が交付されました。今後、3月末までに合計6回の委員会を開催して、「協働のまちづくり推進指針」を策定します。

「協働のまちづくり推進指針の策定」が始まります

平成20年3月に策定された本市の最上位計画「南島原市総合計画」この計画の基本理念として、「みんなが主役“市民協働のまちづくり”」を掲げています。

本市が“南向きに生きる”まちづくりを実現していくために必要なものは、市民一人ひとりの力であり、これからは、市民と行政がこれまで以上に手をとり合って、みんなで協働しながら誇れるまちづくりに挑戦していくことが重要となってきます。

だれにでも元気なあいさつをすることとみんながいいなおと思ってくれるやさしい行動をうやまいます。口之津小学校 名刺 田口愛実